

弦楽
奉納演奏
憲章

一、
中世より続く
地蔵信仰の祭事
「京都六地蔵廻り」
を尊重し、

この四宮の
お地蔵様の御前に、
地縁である
弦楽器演奏を
奉納し、

お参りに来られた

皆々様に
その音色と
功徳を

蒔き響かせん

奏者一同



お地蔵様のこと



平安時代後期の作。定朝門派によるものと推定される

この四ノ宮の地蔵の起源は、平安時代末期、後白河法皇が望んだ都の平安を平清盛が西光法師に相談して、京の出入り口であった七道の辻に、伏見大善寺にあった六体の地蔵をそれぞれ一体ずつ分けて祀ったことが発祥といわれています。『源平盛衰記』

大善寺の地蔵は、小野篁が木幡山の桜の一木から六体を彫り上げたと言われるもの（『六地蔵めぐり縁起』）で、時代や大きさから推測して、胎内地蔵として埋め込まれたとの説があります。

当時は四ノ宮川の川幅が今よりも広く、河原にお地蔵様が祀られ、地域の人や旅人に愛されてきました。『宇治拾遺物語 四ノ宮河原地蔵の事』

その後、六ヶ所に参り功徳を積む「六地蔵めぐり」として広まりました。



人康親王 蟬丸 供養塔



人康親王の霊魂を弔うため建てられたとされる供養塔

六角地蔵堂の北東、表鬼門にあたる場所に、四ノ宮家の先祖、人康親王と、百人一首で知られる蟬丸の供養塔があります。人康親王は仁明天皇の第四皇子で四ノ宮の語源になった人物といわれています。武芸や管弦に嗜みのある将来有望な若者でしたが、二十八歳で高熱に倒れこの山科に隠棲し、天台宗の盲僧らの声明に合わせて、琵琶を奏でたといわれています。蟬丸は謡曲などで醍醐天皇の第四皇子と称され、親王とよく混同されてきました。

人康親王の命日（旧暦五月五日とも旧暦二月十六日ともいわれる）には、当道と呼ばれた琵琶法師の検校たちが徳林庵内にあった四宮社に集まり、琵琶を弾じて冥福を祈ったといわれています。『四宮家文書』『当道要集』など

十禅寺特別会場(千円)

※事前予約特典(琵琶鑑賞1個付)定員50名

プロファイル

13時00分〜14時00分

筑前琵琶

片山旭星

かたやま きよくせい



1955年愛媛県生まれ。1977年より筑前琵琶を人間国宝山崎旭幸、山下旭瑞、菅旭香に師事。1988〜1989年新内を人間国宝岡本文弥に師事。1990〜1996年肥後座頭琵琶を最後の琵琶法師と言われた山鹿良之に師事。その旋律と奏法を次代に伝える数少ない琵琶奏者として玉川教海の名前で活動。古典のみならず現代邦楽、民族音楽等、ジャンルに捕われぬ演奏活動や、ジャズ、ダンスとのセッション、演劇、舞踏の音楽制作、作曲と幅広い活動を通して、琵琶という楽器の持つ独特の音色を生かした新たな可能性を追求している。学習院大学非常勤講師。



荒尾努

あらお つとむ

14時10分〜15時10分
平家琵琶

平曲弾き語り奏者。1979年東京生まれ。1999年故金田一春彦先生・須田誠舟先生の下で平曲を学び始め、現在も指導を受ける。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、三菱重工(株)防衛・宇宙ドメインに勤めながら数少ない平曲継承者として多くの人に平家の語りを聞いてもらい平家一門の素晴らしさを伝えるため、厳島神社、六代御前墓所や京都を始め全国の神社仏閣、小中学校、大学、NHK大河ドラマ「平清盛」展など平家に関連するイベントに年間50回近く積極的に演奏、講演活動を行っている。宮島観光大使。慶應義塾大学非常勤講師。NHK総合「探検ロマン世界遺産」、WOWOW「美術のゲノム」、映画「禅ZEN」など各種メディア出演も多数。